

平成24年度  
事業報告書

自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日

社会福祉法人信達福祉会法人本部  
特別養護老人ホームあつかし荘  
総合老人福祉施設梁川ホーム  
特別養護老人ホーム・デイサービス川俣ホーム

# 事業報告書 目 次

## I 法人本部事業報告

- 1 会務運営状況
- 2 本部事業

## II 各施設事業報告

- 1 あつかし荘
  - (1) 特別養護老人ホームあつかし荘・あつかし荘短期入所生活介護（ショートステイ）
- 2 梁川ホーム
  - (1) 梁川ホーム全事業
  - (2) 特別養護老人ホーム梁川ホーム・梁川ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）
  - (3) ケアハウス広瀬
  - (4) 梁川ホーム通所介護（デイサービスセンター）
  - (5) 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所
  - (6) 伊達市梁川地域包括支援センター
- 3 川俣ホーム
  - (1) 川俣ホーム全事業
  - (2) 特別養護老人ホーム川俣ホーム・川俣ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）
  - (3) 川俣ホーム通所介護（デイサービスセンター）
- 4 被災、避難高齢者の受け入れ状況

## III 各施設利用状況等

### 添付資料

各施設事業月別入所・利用状況

# I 法人本部事業報告

## 1 会務運営状況

### (1) 評議員会の開催（3回）

日時	平成24年 5月23日（水） 午後2時
場所	ケアハウス広瀬食堂 出席評議員数12名、出席監事数1名
議案	23年度事業報告、決算報告 等
日時	平成24年12月25日（火） 午後2時
場所	ケアハウス広瀬食堂 出席評議員数13名
議案	就業規程の一部改正、拠点区分補正予算 等
日時	平成25年 3月25日（月） 午後2時
場所	ケアハウス広瀬食堂 出席評議員数12名
議案	就業規程の一部改正、諸運営規程の一部改正、補正予算、25年度事業計画、当初予算、契約の締結、監事の選任 等

### (2) 理事会の開催（6回）

日時	平成24年 4月 1日（日） 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室 出席理事数7名、出席監事数2名
議案	理事長の互選、常務理事の任命、諸規程の一部改正 等
日時	平成24年 5月24日（木） 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室 出席理事数7名、出席監事数1名
議案	23年度事業報告、23年度決算報告、顧問の委嘱、契約の締結 等
日時	平成24年 8月 6日（月） 午後3時
場所	福島ビューホテル 出席理事数8名、出席監事数2名
議案	評議員の選任、契約の締結 等
日時	平成24年12月19日（水） 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室 出席理事数8名、出席監事数2名
協議	評議員の選任 等
日時	平成24年12月26日（水） 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室 出席理事数8名、出席監事数2名
議案	就業規程の一部改正、補正予算、契約の締結 等
日時	平成25年 3月26日（火） 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室 出席理事数7名、出席監事数1名
議案	就業規程の一部改正、諸運営規程の一部改正、補正予算、移行時特別積立金及び移行時特別積立資産の取り崩し、25年度事業計画、当初予算、契約の締結 等

### (3) 監事会の開催

日時	平成24年 5月16日（水） 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室
内容	(1)事業報告 (2)財産目録 (3)貸借対照表 (4)収支計算書 (5)事業活動計算書

#### (4) 役員研修会

日時	平成24年 8月 6日(月)	午後3時30分
場所	福島ビューホテル	出席者 理事、監事、幹部職員
内容	研修「笑いと尊厳に包まれて」 講師：八島利幸様	

#### (5) 苦情解決委員会

日時	平成24年 7月10日(火)	午後2時30分
場所	ケアハウス広瀬	出席委員(第三者委員) 6名
議題	23年度事業報告、24年度事業計画	

## 2 本部事業

### (1) 栄養ケアマネジメントの推進

3施設ともに多職種協働による栄養ケアマネジメント体制を整え、個々人に最適な栄養ケアを行った。

### (2) 新会計基準への適切な移行

経理規程を改正し、これまでの「指定介護老人福祉施設等会計処理等取扱指導指針」より、新たに制定された「社会福祉法人会計基準」へ移行し、迅速かつ合理的な事務処理に努めた。

### (3) デイサービス提供時間の変更及び食費の改正

平成24年介護報酬改正に伴い、デイサービスの営業時間及びサービス提供時間を変更し、利用者のニーズに応えるとともに、全事業所の食費を経費に見合った額に改正し適正化を図った。

### (4) 事業・業務の進行管理体制の構築

組織管理運営規程並びに会議並びに委員会設置運営要綱に基づき、事業及び会議の効率的、効果的な運営と責任体制を明らかにした。また、預り金管理要綱を組織体制に則して改めた。

### (5) 利用者の権利擁護、リスクマネジメント、認知症介護の支援

研修資料の配付等を通じて、人権意識の啓発とリスクマネジメント活動の定着及び認知症介護の標準化に向けた各施設・事業所の取り組みを支援した

### (6) 喀痰吸引等体制の整備と支援

課長会議等で実施状況を把握し課題を共有、認定特定行為業務従事者(介護職員)及び登録喀痰吸引等事業者の指定を得た。

### (7) サービス評価事業の実施

自己評価及び委員評価を実施し、提供サービス及び組織運営等の現状と課題を具体的に把握、改善計画を作成、改善の取り組みをすすめた。さらに重要課題は事業計画の重点事項に位置づけて、施設、事業所、法人全体の取り組みとした。

### (8) 職員の人材育成について

法人キャリアパス要件を明示し、個別育成(研修)計画の作成に着手した。また、メンタルヘルス相談を受け付け、職員の精神面のトラブルに対応した。

### (9) 法人経営基盤の安定化について

収支状況を四半期ごとに確認し、法人、各施設の資金・財産の適正管理を行った。また、母性健康管理の措置及び高齢者等の雇用の安定に配慮して就業規程の一部を改正し、職員がより働きやすく、働きがいのある職場環境の構築に努めた。

## II 各施設事業報告

### 1 あつかし荘

#### (1) 特別養護老人ホームあつかし荘・あつかし荘短期入所生活介護（ショートステイ）

##### ①介護職員のたんの吸引等の取り組みについて

安全確保のための体制の整備、緊急時の医師・看護師との連絡体制の構築、業務手順書の整備等を行うことができた。介護職員1名が喀痰吸引等基本研修と実地研修を終えることができた。

[介護]

①リスクマネジメント委員会等を中心に、事故発生後の家族連絡をスムーズに行い、職員間で情報の共有に努めることができた。マニュアルの一部変更や事故発生時のマニュアルの読み上げを実施した。

②排泄介助方法では、グループ毎に利用者一人一人の排泄間隔・尿量や皮膚トラブルを把握し、個々にあった排泄介助方法の見直しに取り組むことができた。

[看護]

①褥瘡対策委員会を中心に、職員が一丸となって褥瘡の予防に努めた。また、褥瘡の早期発見、早期治療に努めた結果、著しい悪化もなく良い経過をたどることができた。

②家族の希望を伺い、各職種連携にて家族の希望に沿う形での看取りケアを実施することができた。

[相談援助]

①面会時に利用者の近況報告に努め、それに伴う家族の意向を把握し、できるだけ意向に沿えるよう、各職種連携のもと統一した対応ができるよう連絡体制作りに努めた。

[事務]

①新会計基準に対する理解を深め、移行を適切に行う事ができた。また、迅速かつ合理的な事務処理に努め、過去に過大計上されていた額について、適正に処理することができた。

②修繕については、収入状況に応じて施行時期の優先順位を決め行う事ができた。また修繕方法や修繕額、維持管理方法等については、業者との打ち合わせにより、コスト削減を意識しながら行う事ができた。

[職員の資質向上]

①法人キャリアパス要件を基に、個人別の研修参加表を作成し、それを基に研修計画を立て、職員の質の向上に取り組む事ができた。

### 2 梁川ホーム

#### (1) 梁川ホーム全事業

①感染症対策委員会を通して衛生管理と衛生教育の徹底を図り、冬季間のインフルエンザ、ノロウイルス感染の蔓延を最小限に抑えることが出来た。

②認知症介護委員会を中心に総合老人福祉施設梁川ホームとして、中学生ボランティアを対象に認知症サポーター養成講座を開催した。

#### (2) 特別養護老人ホーム梁川ホーム・梁川ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）

[特別養護老人ホーム梁川ホーム]

①利用者様一人一人の状態に合わせた施設サービス計画の遂行にあたり、職種ごとの専門的な知識・技術の裏付けに基づく多職種協働に努めた。

- ②機能訓練のメニューに、レクリエーションやアクティビティ活動を目的とした集団リハビリを取り入れ、利用者様に楽しみながら参加していただくことが出来た。
- ③看護と介護の連携のための知識と技術の向上を図ることにより、利用者の急変時にもすぐに対応することが出来た。
- ④多職種と協働した栄養管理を行うことにより、利用者様のその時その時の心身状態を把握したお食事の提供や、ライフステージに合わせたケアの提供を進めることが出来た。
- ⑤利用者に人として尊厳ある最期を迎えて頂けるよう、ご家族と施設、関係職種間の連絡調整、職員研修を行い、評価を重ねて看取りケアの充実に努めた。

[梁川ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）]

- ①ご利用者の面接、カンファレンスの開催、ご家族、ケアマネへの連絡・相談などの適時、適切な行動により、スムーズに利用していただけるように努めた結果、稼働率が上向きとなった。

### (3) ケアハウス広瀬

- ①開設から年数を経て、要支援、要介護状態の入居者が増えてきたため、転倒のリスクの高い方については個別に注意を促しながら事故の予防に努めた。
- ②認知症の症状が現れてきた入居者に対しては、職員の声掛けや働きかけをこまめに行い、穏やかに過ごしていただくことを心がけた。
- ③今年も介護予防体操を継続して行って健康維持に努めた。

### (4) 梁川ホーム通所介護（デイサービスセンター）

- ①個別レクリエーションは、その時の利用者の希望に応じ、柔軟に変化し対応することで楽しみを持っていただくことが出来た。オーダーレクリエーションは希望をとっても答えられる利用者がほとんどおらず、職員の進め方に工夫が必要であると感じた。
- ②認知症委員会とともに、家族介護者教室を通して働きかけが出来た。認知機能訓練としての料理作りは、作業をしながら会話し、昔の話など記憶をひきだし回想療法につながった。
- ③歌や踊り、会話などのボランティアを受け入れ、定期的に来てくださる方も出来、利用者の楽しみにつながった。

### (5) 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所

- ①毎月、アセスメントからニーズ抽出を意識して、ケアプランを検討したところ、個々に似通う点が多いことに気付くことができた。さらに必要な情報を意識することができた。
- ②入退院の時、医療機関との連携は都度実施することができ、在宅生活の継続支援に貢献できた。退院前の相談は定着している。特にケアハウス入居者の方の相談には配慮を行った。
- ③認知症介護委員会でサポーター養成講座や介護者教室を企画し、地域に発信するとともに、認知症の知識を深めることができた。

### (6) 伊達市梁川地域包括支援センター

- ①平成24年度から開始された伊達市第5次保健福祉計画に基づく地域包括支援センターの役割を遂行し、高齢者が安心して地域で生活出来るために尽力した。
- ②地域におけるネットワーク構築を図るとともに社会資源、ニーズの把握を進め、地域住民が必要としている情報を必要な時に速やかに提供出来るように努めた。
- ③伊達市高齢者虐待に係る事務処理要綱に基づき、虐待の通報を受けた時は速やかに市に情報提供を行い、地域住民の心身と生活の安全を守るために役目を果たした。

### 3 川俣ホーム

#### (1) 川俣ホーム全事業

##### ① 営業収益の向上と経営の安定化

介護報酬改定に伴い加算見直し部分の精査を行ない、各事業内容において安定的な経営と営業収益向上を常に考え、利用者及び家族の意向も踏まえながら新しい加算算定及びデイサービスのサービス提供時間の見直しにも取り組むことができた。

##### ② 個人情報管理体制の確立

施設運営にとって重要である個人情報が漏洩することがないように、各職種において使用する書類を日常的に整理・管理し、保管に関しても施錠できる保管庫において確実に実施した。

##### ③ 災害時の体制づくり

東日本大震災の教訓を基に、災害時における利用者・職員の安全確保を図る為に、日常的に福祉用具の点検や食料や備蓄の確認、また災害対策マニュアルを整備し職員への周知を進めた。

#### (2) 特別養護老人ホーム川俣ホーム・川俣ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）

##### ① 居室空間の整備と心のこもった対応

利用者一人ひとりの意向を尊重しながら、多床室においてもプライバシーに配慮し落ち着いた空間が確保できるように担当職員を中心に実施した。また、利用者に関わる時間を大切にし、その中から思いを汲み取り職員間で共有し統一した対応が出来るように心がけた。

##### ② 介護職員の医療行為（たんの吸引等）の取組み支援

介護士、看護師連携のもと、医師の指示や計画書に基づき利用者の状態に応じて適切で確実に実施し、利用者が夜間帯においても安全に過ごせるように対処した。

##### ③ 栄養ケアマネジメントの充実

多職種協働で栄養ケアマネジメントの充実を図り、利用者の全身状態や嗜好も考慮し、安全かつ楽しんで頂ける食事の提供に努めた。

#### (3) 川俣ホーム通所介護（デイサービスセンター）

##### ① 地域に対する情報発信と新規利用者の獲得

「かわまたホームほほえみだより」に定期的にデイサービス活動内容を掲載するとともに、利用者アンケートを実施し要望を取り入れながら新規利用者獲得に努めた。

また常に新しいレクリエーション活動などを検討し、楽しみをもって継続してご利用頂けるよう職員一丸となって実施した。

### 4 被災、避難高齢者の受け入れ状況

平成23年度において、東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故により被災、避難された高齢者の方、3施設合わせて11名（伊達市梁川町5名、南相馬市2名、双葉町2名、大熊町1名、浪江町1名）の緊急受け入れを行い、うち3名が特養入所となった。現在もなお、施設等に戻る事が困難な避難者の方2名を受け入れている。